

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】		① 作成日	令和 7 年 5 月 27 日
② 法人・団体名	特定非営利活動法人子育てサークルネットしずおか		
③ 団体所在地 (都道府県・市町村名まで)	静岡県静岡市葵区桜町		
③ 責任者氏名	市川久二子	(役職名等)	理事長
④ 担当者氏名	稲木浄美	(役職名等)	事務局長

【奨学活動の概要】

⑤ 助成交付決定番号	R06-043	⑦ 助成金額	57 万円	⑧ 申請カテゴリ	D
⑨ 奨学活動名	困難を抱える子どもの学習支援と学びの場の立ち上げガイドブック制作事業				
⑩ 主な実施場所名・及びその住所	静岡市地域福祉共生センターみなくる				

⑪ 活動内容とその成果の概要（詳細は【様式 3 - 2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

【活動内容の概要】不登校、発達障害、ひとり親家庭、経済的ハンデを持つ家庭など、勉強したくても思うようにできない環境の小中学生を対象とした学習支援と、学習ルームを立ち上げるためのノウハウを記したガイドブックの制作。

【事業成果の概要】

タブレットによるデジタル学習を取り入れたことで、学習に集中できない子どもが勉強に興味を持ち、前向きに取り組めるようになった。学習ルームの活動が広く周知されるようになると、学習支援に関心を持つ支援者の問い合わせ・相談が増えた。学習ルームを立ち上げたい方へ、これまでの経験を踏まえて、そのノウハウやアドバイスをを行い、新しく 2 カ所の学習支援の団体が発足した。今後も引き続き、相互の連携を図り、協力しあえるネットワークの構築を目指していく。

⑫ 奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式 3 - 2 等でご報告願います）

支援対象	延べ人数 (A : 人)	平均時間 (B : 時間)	活動量 (A x B)	備考・補足・計算根拠等
中学生等	75	2.0	150	
高校生等	41	2.0	82	
大学生等	0	0	0	
学習支援員等	127	2.0	254	
その他	12	1.5	18	保護者相談 9 件、支援者相談 5 件
合 計			504	

⑬ その他の定量的な数値（任意）

令和 6 年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：

困難を抱える子どもの学習支援と学びの場の立ち上げガイドブック制作事業

法人・団体名：特定非営利活動法人子育てサークルネットしずおか
作成者 氏名：稲木浄美

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

継続事業である 2 年目は、これまでの実施の反省点や見直し点をスタッフで話しあいを行った。

- ① 不登校の子どもは気持ちの浮き沈みもあって当日の欠席が数人生じてしまう。そのため待機している担当スタッフの手が空いてしまい、その場合にどうするかが課題であった。子ども 1 人に対して 2 名のスタッフが対応をすることも試してみたが、スタッフ間の交流の時間として設けたところ、以前よりコミュニケーションが図られ、活動がよりスムーズにできるようになった。
- ② 近年、支援級在籍の子ども(特に自閉症、発達障がいなど)に対する対応、学習サポートの仕方の難しさが課題となった。学習意欲はあるが、短時間しか集中が続かないため、個々の学習の内容、休憩時間など個別計画が必要となった。持ち込んだ学校のワークの内容では難しく、個々に適した教材の選定に苦労した。保護者と面談を行い、自宅での学習の様子や、学校でどのように授業を行っているかなど情報の共有をして、子どもに負担のない学習支援を目指した。
- ③ 学習支援の活動に関心のある人や、立ち上げの相談に訪れた方には、制作のガイドブックを配布し、希望者には、学習指導体験に加わってもらい、実際の現場を体験してもらった。(スタッフのひとりが新たに学習支援の場を立ち上げ、R7.4 月から開校することが決まった)
静岡市主催の「学習支援員養成講座(全 6 回)」が行われ、講師として参加し、活動の紹介や立ち上げのノウハウなどを伝授した。

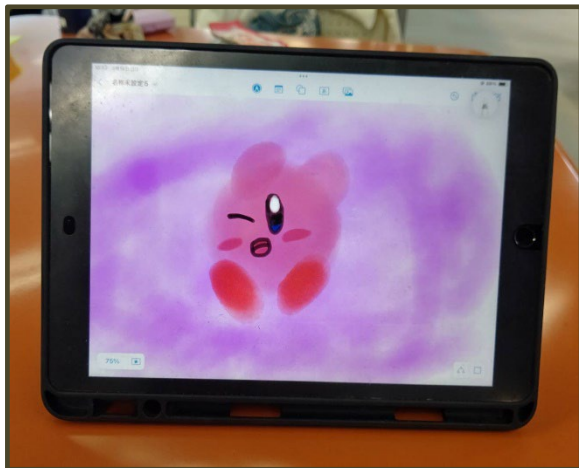
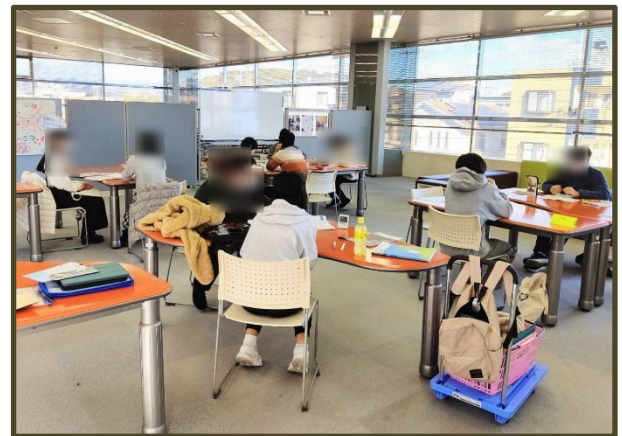
2. 実施した奨学活動の詳細

【活動内容の詳細（写真や図表を用いてご説明ください。）】

- ・会場/静岡市地域福祉共生センターみなくる 地域交流スペース
- ・日時/毎月 2 回、日曜日 10:00~12:00
(7/14、7/21、8/18、8/25、9/8、9/29、10/13、10/27、11/10、11/24、12/8、12/22、1/19、1/26、2/2、2/16、3/16、3/30)
- ・対象/不登校、発達障害、ひとり親家庭、経済的ハンデのある中高校生
- ・会費/無料
- ・内容/学修ルームにおける子どもの学習サポート、メンタルサポート、保護者相談、学習支援活動立ち上げの相談

【参加人数】

- ・中学生/延べ 75 名
- ・高校生/延べ 41 名
- ・学習支援員/延べ 127 名
- ・保護者相談/7 名(発達障害 2、不登校 4、成績不振 1)
- ・支援者相談/5 組



【周知方法や協力いただいた関係者】

静岡市地域福祉共生センター、静岡市子育て支援団体連絡会、静岡市教育委員会(後援名義)、静岡市発達障害者支援センターきらりほか行政機関。その他の公共機関(各市立図書館、児童館、生涯学習センター、市民活動センター)。

【地域やボランティア活動との連携】

近隣の小中学校を訪問し、全校生徒にチラシの配布依頼。子どもの居場所を運営する民間団体と連携し、不登校の子どもと親のサポートを行い、必要に応じて行政支援機関に繋がれた。小中学校のスクールカウンセラー、教育相談員など学校関係者の見学は積極的に受け入れ、学習ルームの雰囲気や子どもたちの様子を知ってもらった。

【学習支援員について】

地域の有志ボランティアで構成(元小中学校教諭、特別支援学校職員、放課後等デイサービス職員、元家庭教師、塾講師、中学校教育相談員、その他子どもに関わる社会人など)。指導経験は問わず、子どもに寄り添ってくれる社会人で、中学の数学・英語の基礎指導ができる者を対象とし、最終的な受け入れは面談と指導体験で決定。学生の受け入れはしない。今期6名の学習支援員(ボランティア)が新たに加わり、R6年度末時点で15名のスタッフ登録。参加生徒の状況に応じてスタッフと子どもの組み合わせを考える。1対1の対応を基本とする。活動で知り得た子どもの個人情報の守秘義務と、子どもとの個人的な連絡は禁止。活動以外に関わらないことを徹底している。

【購入した機材・物品の写真(助成表示用シールの貼付)】

- ・ガイドブック制作のための印刷機
- ・コミュニケーションを図るためのカードゲーム



3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

本活動は、社会人ボランティアたちが子どもの学習を応援したい気持ちから始まった活動であったが、子どもと真摯に向き合うなかで、相手(子ども)に何かを伝えることの難しさや、相手とひとつのことを共同して行う充足感などを実感できるものとなった。同時に、思春期の子どもは、「自分とは何か」、「人とは何か」を問っている時期であるが、本活動を通して、人と関わることの楽しさと、人に認めてもらえる経験が得られたのではないかと思う。

今後は、ボランティアスタッフのスキルアップと、学習支援の場を立ち上げたい方のサポート・協力に力を入れ、相互間のネットワーク作りを目指し、各地域に子どもの居場所(学習の場)を展開していきたいと考える。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等(任意)

5. 学識者からのご意見、コメント、等(申請カテゴリにて「S」が付されている団体)